

## 令和元年度事業報告

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

創設17年目を迎えた令和元年度は、これから組織が向かう方向性を定めていくために各地でFAJ創設の原点を確認する場が開かれました。また、各地の支部イベントでは「わかりあえなさ」「ギャップ」など社会に分断が生まれている状況を捉え・打開する術を模索する活動が開かれました。なお、年度末には新型コロナウイルス感染被害の影響でいくつかの活動中止を余儀なくされましたが、組織の知見を基にしたオンラインツールを用いた活動も始まりました。

**調査・研究事業：** 定例会、例会等において、FAJ内外のファシリテーターとの研鑽の場づくりを行いました。前年度に引き続き、オンラインを活用し、地理的・時間的制約を超えて探究の場を広げました。

**教育・普及事業：** 基礎セミナー及びアフターミーティングを全国で開催し、運営の効率化・相互協力を促進しました。「実践編セミナー」のリリースに向け、新コンテンツの開発・試行を実施し、体制の検討を行いました。

**支援・助言事業：** 社会課題の解決や新しい社会の創造に関わる様々な個人・団体の要請に対して、ファシリテーションを活用した支援を行いました。さらに教育分野に注力した支援に関する検討を始めました。

**交流・親睦事業：** 地域イベントの開催、IAF大会への会員派遣、グローバル社会に向けたファシリテーションへのニーズ探索等の活動を通じて、国内各地域や国境・文化を越えた交流を深め、FAJのグローバル活動の幅を広げました。

**広報・コミュニケーション活動：** ファシリテーションのインパクトをより効果的に社会に伝えるとともに、将来の会員や支援先、協働パートナーを見据えた広報を展開しました。また、会員相互のコミュニケーションの充実を図りました。

**ミッションおよび組織運営に関わる活動：** 全国の会員がリアル／オンラインの場で対話と議論を重ねながら、FAJ活動の意義を問い直し、よりよい運営方法を考えることで、そのあり方とやり方を検討しました。

以下、事業計画に沿って、事業の概要を報告します(括弧内は担当組織を表します)。

### 1 ファシリテーション技術の確立や新しい技術の開発を目指す調査・研究事業

#### 1) 実践力の相互研鑽の場作りの推進(理事会、各支部運営委員会、プロジェクト)

- 各支部・サロンで開催した「定例会」「例会」にて、現場でファシリテーションを実践している内外のファシリテーターの話題提供をもとに「学び」と「実践」双方の視点からファシリテーションについて探究し、調査、研究しました。結果についてはホームページなどにレポートとして掲載しました。プロジェクト活動の新規設立はありませんが、テーマ型サロンが新たに2つ立ち上がりました。
- 新型コロナウイルスの影響によりリアルで行う「定例会」「例会」が中止となる中、オンラインによる全国の支部長連携による大規模な企画の実施や、オンラインファシリテーション研究サロンをはじめとした「定例会」「例会」を積極的に開催しました。

#### 2) ファシリテーションの本質を研究(理事会、イベント実行委員会)

- 総会後に実施した「ファーストミーティング」の場で巨大イベントのコアメンバーを募り、立場・環境・地域・世界など様々な壁を乗り越えるための対話の場を軸としたファシリテーションイベントを企画しました。
- 全国のファシリテーターが集い語り合う、ファシリテーションの未来が見える場として、全国イベント「ファシリテーションサミット」を企画しました。

## 2 ファシリテーター養成や実践方法の普及を目指す教育・普及事業

### 1) 従来の公開セミナーの継続強化(公開セミナー委員会)

- 後述のとおり、27会場39クラスを開催しました。またアフターミーティングを4回開催しました。
- 講師トレーニングを2回実施し、講師のスキルアップを行いました。また、准講師トライアルを1回実施しました。基礎セミナーのコンテンツをよりわかりやすくアップデートしました。
- 地域を越えてセミナー運営をサポートするセミナー・サポート・センター(SSC)を活用し、申込みweb開設、受講料の入金確認、申込者等からの問い合わせサポートを行うことで、委員会運営の効率化・相互協力を行い、スムーズな準備・運営を図りました。

### 2) 公開セミナーの新たな展開の検討(理事会、公開セミナー委員会)

- 開発している実践編コンテンツ試行版の改良を重ね、セミナー受講者有志を対象としたパイロットセミナーを2回実施しました。事業化に向けてプログラムのブラッシュアップおよび、講師や運営の体制について検討を行いました。

## 3 各種団体におけるファシリテーションの活用をサポートする支援・助言事業

### 1) 社会からの多様な要請に対する支援の充実(ファシリテーションサポート委員会)

- 所属する委員の専門知見を共有しながらヒアリングを実施し、地域や分野で近い会員がいるときは、サブファシリテーターとしての案件関与を依頼しました。また、継続案件に対しては、現場の自立を促せるようフェーズを変える提案もしくは支援を実施しました。
- 案件分析結果において、教育分野から一定数の依頼があることを確認しました。そのため、今後の事業において教育分野での支援・助言の効果を高められるよう、過去案件および会員リソースを活かした知見集約の実施方針を定めました。

### 2) 災害復興・防災・減災に関するファシリテーションを通じた支援(災害復興委員会)

- 台風19号災害では、これまでの災害復興支援活動の中で関係を育んできた団体等と共に、情報共有会議などにおける災害支援を実施することができました。また、東日本大震災、熊本地震、九州北部豪雨災害、西日本豪雨災害も継続して、復興フェーズに応じた支援活動を行いました。
- 板書勉強会を各地で開催することで、災害現場に対応できる人材の発掘を行いました。また、東日本大震災の復興支援においては復興の担い手に対してファシリテーションの養成プログラムを実施するなどの人材育成の機会を設けました。
- JVOADが主催するフォーラムの分科会で委員会の知見や経験を共有する場を設けたり、内閣府が各地で実施する三者連携の研修会においてはファシリテーションを活用したワークショップを実施し、防災・減災に役立たせる活動を実施しました。

### 3) 支援活動への理解の促進(ファシリテーションサポート委員会、災害復興委員会)

- ファシリテーションサポート委員会では、定例会への話題提供を通じて、支援・助言活動の意義について理解浸透に努めました。
- 災害復興委員会では、その活動を会員や社会に向けて、委員会報告書や東京での報告会、SNSなどで発信し、本事業の効果・意義を広く伝えました。

## 4 ファシリテーターや関連団体間の親睦を図る交流・親睦事業

### 1) 地域イベントを開催(各支部運営委員会、地域イベント実行委員会)

- 東北・東京・関西・九州の各支部において多彩なテーマで地域イベントを開催し、FAJ 内外の交流を促進できました。北海道・中部・中国の支部イベントは、新型コロナウイルスの影響により中止しました。

## 2) 国境や文化・言語を越えてつなげる活動強化(理事会、グローバルファシリテーション推進委員会)

- IAF(International Association of Facilitators)マレーシア大会へ4名の若手FAJ会員を派遣しました。大会参加報告会をオンライン、沖縄サロン、関西支部にて開催し、報告書をホームページ上で共有しました。
- グローバル社会に向けたファシリテーションへのニーズ探索を実施し、外国人就労支援団体の活動支援や科学技術の社会実装のためのファシリテーションに対して、FAJとしての活動の可能性を見出しました。
- 委員会のあり方について検討した結果、グローバル領域における窓口機能やFAJのグローバル化を促進する機能を今後も担っていくことを改めて確認しました。

## 3) 他団体との連携強化(理事会、各支部運営委員会、事務局)

- IAFやICA(Institute of Cultural Affairs)のイベント情報をFAJ内で共有し、各団体の会員相互の交流を促進しました。
- 外部団体のイベントに、運営面やファシリテーターの役割として協力するなどの取り組みを行いました。

# 5 広報・コミュニケーション活動

## 1) 広報戦略の立案と発信の強化(理事会、広報委員会)

- 広報ターゲットに合わせた広報活動を継続的に推進するために、広報委員会を新設し運営を開始しました。
- 新たな広報ツールとしてブログを開設し、全国に発信しました。

## 2) FAJ活動を内外に発信する広報活動の実施(広報委員会)

- ファシリテーションに関する知見や、会員の実践事例収集のための取材をし、Webサイトに掲載しました。
- ニュースレターを年2回発行し、会員相互で知見を共有することで積極的な活動を促しました。
- 広報ターゲットにあわせたWebコンテンツの充実のための検討を行いました。またプレスリリースする際の要点と発信のプロセスを整理したマニュアルを作成・展開したり、実際にプレスリリースを用いて各支部イベントの開催情報を発信しました。

## 3) 会員相互のコミュニケーションの充実(理事会、広報委員会、システム管理委員会、事務局)

- セキュリティ対策として、メール・メーリングリスト機能をG-suiteに移行しました。各拠点・専門委員会で、Slack・Stock等によるコミュニケーション・情報共有を施行しました。

# 6 ミッションおよび組織運営に関わる活動

## 1) 組織のあり方と運営のやり方の検討(理事会、各拠点、事務局)

- 理事会を各支部の定例会に併せて開催し、運営の現場との意見交換を実施しました。また、FAJの原点及びこれからのFAJに関する方向性を、2回の拡大理事会の中で各拠点と議論しました。
- 予算収支を考え、持続可能な活動を進める上でも、会員がボランティアで活動する意味を改めて問い直し、事業と法人運営とで活動範囲の整理を始めました。
- 令和元年台風19号の支援活動において中央共同募金会より1,830,000円の助成金拠出を受けました。

## 2) 各種制度改正への対応(理事会、事務局)

- 制度改正への対応はありませんでした。